

福井県立大野高等学校

JRCサークル

ふるさとを水と繊維でつなぐ



越前大野名水マラソン運営ボランティア・荷物預かり所にて



商店街のハロウィンで
オレンジリボン運動（子ども虐待防止啓発）



古着シャツをサイズごとに仕分けし、
JFSA を通してパキスタンへ送付

活動期間 2019年4月～（年40回ほど活動）

構成人数 高校生14名・大人1名

SDGsテーマ



推薦メッセージ

本校 JRC（青少年赤十字）は熱心に課外活動、ボランティア活動に取り組んでいる団体です。ご高配いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

福井県立大野高等学校 校長 真鍋 清希

活動内容

JRCは青少年赤十字の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の目標のもと、世界と地域のボランティア活動に取り組んでいる。

① 世界の役に立つ

「東ティモールに水道を」豊かな湧き水に恵まれた大野市民の私たちは、東ティモールへの水支援Carrying Water Projectを行っている。

「越前大野名水マラソン」の運営ボランティアやランナーとして、給水所では湧き水を提供し、市・ユニセフと協働、ランナーの参加費から1キロ走るごとに10円を寄付している。

今までに6基の重力式給水システムの建設を支援し保全している。これまでに約3,700 人が水道を利用できるようになった。今年度は16名の生徒が現地の大使館や「カノッサ高校」とオンライン交流も行った。

「古着おすそわけプロジェクト」2021年からイベントや学校祭などのスポーツシャツ古着をJFSAを通してパキスタンに送り、スラム地区の学校運営に役立てている。児童労働・児童婚により学校に通えない子どもがいなくなるよう支援している。

「エコキャップ回動」「古本市」資源の再利用とともに途上国の医療や障がい者・高齢者雇用、環境保護に役立てるようになっている。

「ウクライナ人道危機救援」ウクライナ産の菓子などバザー

2回と演奏会チャリティーで東欧の文化を知ってもらい、救援金を集めた。

「**災害義援金運動**」令和3、4年度の豪雨災害、パキスタン地震の義援金を募った。

② 持続可能なまちづくり

「**つなぐプロジェクト**」世代を超えて交流し、文化・芸術を継承し地域をつないでいる。

「**防災学習**」救急法・AED講習を受講し、緊急時に貢献できるようにしている。

「**ハロウィン×オレンジリボン運動**」商店街で仮装し、子ども虐待防止啓発運動。

「**大野市社会福祉大会、大野地区社会福祉協議会20周年大会**」福祉・まちづくり活動を発表。パネルディスカッションを行った。

「**弓道講座**」大先輩に習い、小学生に教えるなど多世代で魅力を伝えている。

「**大野市文化祭**」高齢者とジャンルを超えて芸の交流を行っている。

「**青葉の笛**」和泉地区に800年伝わる篠笛を継承している。学校祭でも演奏した。

「**ふるさと絵師**」観光地「御清水」を手描きの提灯で彩った。黑板アート甲子園「福井の魅力を詰め込んで」がエリア賞に。全国に発信した。

「**FUKUI SDGs AWARDS**」毎年出場。SDGs活動を発表している。

01. 活動をはじめたきっかけ

大野市のキャッチフレーズ「結」の心で 「世界と地域」の問題に注目

大野市のキャッチフレーズ「結」には人と人をつなぐ、遠くの地域と縁を結ぶ、という意味がある。私たちは「世界と地域」の問題に注目し「人権・環境」を守るため、「結」の心でボランティア活動を行っている。

東アジアでもっとも水資源に恵まれない東ティモール。

学校へ行けない子どもが多いパキスタン。

困っている人々に何かできないか考え「私たちが豊富に持っているもの、余裕があるものをシェアして役立ちたい」と、大野市の「水」や福井県の「繊維」など地域の強みを生かし「世界の子どもに水と教育を」の実現を目指し Carrying Water Project や古着おすそわけプロジェクトに取り組んだ。被災地支援や資源の再利用によるエコ活動も行っている。

大野市は過疎化、高齢化が進んでおり、世代間の分断や伝統文化の継承も心配される。「つなぐプロジェクト」では子どもや高齢者との交流の中で、高校生が多世代をつなげている。

02. 活動から学んだこと・感じたこと

コロナによる休校や活動の制限を経て 人と交流し、頼りにされる喜びを実感

3年生は入学と同時に新型コロナによる2ヶ月間の休校に見舞われ、1、2年生も課外活動は制限された。人と交流し、誰かの力になりたいという願いが実現できた。

東ティモールに水が供給されると、多くの子どもたちが水くみから解放され学校に行けるようになり、女性も農業や水管理技士の仕事に就けるようになったそう。

「水」と「教育」と「ジェンダー問題」はつながっていると感じた。



東ティモール「聖マグダレナ・カノッサ高校」と
オンラインで交流

オンライン交流で「まだ水が行き届いていない地域もある」と知り、次はチャリティー演奏会を実施してはどうか、と話し合った。パキスタン

の支援先「アル・カイルアカデミー」から、初めて女子学生が医科大学へ進学したと知り、支援できたことを誇りに思えた。貧しい12人家族の彼女は蝋燭の灯りで勉強したそう。教育に恵まれている私たちも彼女のように努力したいと励みになった。「つなぐプロジェクト」では多くの人々と交流でき、頼りにされ嬉しかった。

03. 継続するためのこれからの工夫

高校生の若さと活動を知ってもらい 多世代と協働できるよう工夫していきたい

環境保護のためデジタル原稿を活用し、掲示物もポスターの裏面を利用した。古着・エコキャップなど身近な資源の再生・再利用を心がけ提供も呼びかけた。

市内のボランティア先には基本的に自転車で行き、マイボトルに大野の水を常備するようにした。他校生と交流し多くを学んだ。

高校生だけでは実現が難しいことも、卒業生、市役所、商店街の方、NPO 団体に助けを借り実現できたこともあった。市内でボランティア活動をしていると、大人から「こんな活動もやってみないか」と声をかけられることもあるので、活動を知ってもらい多世代と協働できるように工夫した。

高校生はお年寄りと子どもの「真ん中の世代」で、地元愛に加え、体力、フットワークの軽さ、発想力を持っている。ICT に親しんでおり、情報収集力・発信力も持っている。若さと活動実績をアピールし、ふるさとを元気に、伝統をつなげ、大野の魅力を発信し、地域活性化に貢献したい。

活動の略歴

- 2019年4月～2021年8月 全国高校総体北信越大会おもてなしボランティア
- 2021年5月 エコキャップ回収運動開始
- 2021年7月 令和3年大雨災害義援金運動
- 2021年8月 聖和園・希望園・誓念寺こども園ボランティア
- 2021年9月 古着をパキスタンへおすそわけプロジェクト 33着
- 2021年10月 七間商店街ハロウィン×子ども虐待防止オレンジリボン運動
- 2021年11月 第25回ボランティア・スピリット・アワード 東海北陸コミュニティ賞
- 2021年12月 令和3年度青少年赤十字全国スタディープログラムオンライン大会参加
- 2022年2月 FUKUI SDGs AWARDS 2021 最終審査会 鯖江市賞
- 2022年3月 ウクライナ人道危機救援 チョコレート・チャリティー
令和3年度 福井県青少年赤十字リーダー研修会（敦賀市ムゼウム）参加
- 2022年4月 ウクライナ人道危機救援 イースター・チャリティー
- 2022年5月 福井県青少年赤十字高校生協議会 参加 令和4年度議長・副議長 / 第58回名水マラソン 運営ボランティア
- 2022年6月 煌奏祭（文化部発表会）にてウクライナ人道危機救援祈りの歌チャリティー
- 2022年7月 救急法・AED講習① / 市内の観光地御清水を水彩の提灯で彩る
- 2022年8月 認定こども園大野幼稚園ボランティア
高校生ボランティア・アワード2022 全国大会出場
- 2022年9月 古着をパキスタンへおすそわけプロジェクト 23着 / 日学 黒板アート甲子園2022「東海・北陸・中部」エリア賞
大野市社会福祉大会 参加 / 令和4年大雨災害・パキスタン地震 義援金運動
- 2022年10月 大野地区社会福祉協議会 設立20周年記念パネルディスカッション参加
七間商店街ハロウィン×子ども虐待防止オレンジリボン運動 / 救急法・AED講習② ハイムリック法講習
- 2022年11月 令和4年度福井県善行青少年（団体）知事表彰 / JENESYS 高校生オンライン派遣（東ティモール）8日間参加
- 2022年12月 第8回全国ユース環境活動発表大会 中部地方大会 優秀賞
- 2023年1月 福井県青少年赤十字高校生協議会 令和4年度国際交流の集い準備